環境中長期目標と実績



■環境中長期目標

当社は2018年度に2030年度を最終年とする環境中長期計画 を策定し活動しており、この中でCO₂排出量は、COP21の政府 約束草案による温室効果ガスの削減目標に対応していました。

しかし、政府の2050年カーボンニュートラル宣言、および 2030年目標の提示により見直しを行い、2030年目標の方針を 「CO2排出量46%削減(2013年度比)」と再設定しました。現在、 この方針を踏まえた新たな中長期計画を策定すべく検討中で す。(下記のグラフおよびP104の詳細データには、従来の中 長期計画を表示しています。)

目標検討においては、上記のほか、以下を念頭に置いています。

- ・SDGsにおける、2030年を目標年とした国際社会共通の持 続可能な開発への対応。
- ・省エネ法、温対法への対応。

また、経団連の「カーボンニュートラル行動計画」にも、日 本化学工業協会を通じて継続して取り組んでまいります。

さらに妥当性を再検討した上で他の目標の見直しも実施し、 マテリアルロス(廃棄物と有価物)発生量を抑制することによ り資源利用率を向上し、有効な原材料利用を進め、化学物質排 出量の削減も推進し、計画的に環境負荷低減への取り組みを進 めてまいります。

国内事業所の取り組み

CO2排出量は2020年度前半まで、COVID-19感染拡大によ る影響を受けましたが、2020年度後半からは生産活動の回復 と電力事業者の排出係数悪化により、わずかに増加しました。 2021年度はさらに回復が予想されますが、カーボンニュート ラル対策の導入と効率化により2020年度からの削減を目指し ます。

マテリアルロス発生量は、後半に増加しましたが、前半の停 滞と、MFCA*1活動による、無駄の発見と削減の推進により、 2019年度から減少しています。2021年度はさらに資源の有効 活用と無駄の削減を進めます。

化学物質排出量は、2020年度後半の半導体関連部門等の生 産増による溶剤使用量増加により、2019年度より増加しまし た。2021年度は処理効率化により削減できる見込みです。

※1 P108用語集参昭

海外事業所の取り組み

海外事業所のCO2排出量は、引き続きCOVID-19の感染拡大 の影響を受け大きく減少しました。しかし、各事業所の省エネ 活動も成果を挙げており、2021年度は生産回復とともに、さ らにCO2排出量の削減を目指します。

マテリアルロスの発生も同様に影響を受け2019年度から減 少し中長期目標レベルに達しました。しかし、2021年度以降 は回復が見込まれるため、MFCA活動等による無駄の削減を さらに進めていきます。

化学物質排出量は一昨年導入した排気燃焼装置の効率的な運 用継続により減少しました。2021年度以降もさらなる使用量 削減を推進します。













- 集計対象については、P.3記載の対象組織をご参照ください。
- CO₂排出量、マテリアルロス発生量、化学物質排出量の定義・算定方法については、P.104に記載しています。
- 当社グループ国内事業所における化学物質排出量中の化管法対象34物質の排出量合計は5.1t、移動量合計は94tです。排出・移動量の詳細はP.106に掲載しています。